



図-8 ゴマアイゴの植物餌料による成長
(昭和53年度報告より)

昭和55年度においては試験期間を1ヶ月間に延長し前回とはほぼ同様に成長試験を行った。但し供試魚は前回と異なりアイゴ (*Siganus fuscus*) を用いた。結果は表-9と図-4に示した。0-2週間の成長は配合飼料を与えた試験区以外ではほとんど成長は得られなかったが2-4週間になるとアオリ餌料区で配合飼料区と変らない成長が得られた(図-5)。アオサ区でも0-2週の間と比べると体重増加の傾向が同われ海藻餌料による成長が見込まれたが、ホンダワラを給餌した区においては、ほとんど成長がみられずむしろ体重減少という結果となった。天然においてホンダワラが繁茂する時期には、アイゴはかなりのホンダワラを摂食して成長しているようであるが、試験的にはそのような結果を得ることはできなかった。ホンダワラは試験された他の海藻に比べて特に硬いので消化が困難であったことは推察できるが、今後更に自然に近い条件下で試験を行う必要があると考えられた。以上のことから、飼育条件は良くなかったがアイゴは、海藻餌料を利用できる可能性を持つ一魚種であるということは推察できた。

(II) ティラピア類の海水馴応性

現在沖縄県において、ティラピア・モザンビカが河口の汽水域及び内水面に広く生息し繁殖している。ティラピア・モザンビカはティラピア類の中では海水に強い種類であるが養殖適種とはされていない。しかし、珊瑚礁海域を利用した増殖を考えた場合養殖適種であるティラピア・ニロチカの海水馴化という問題がある。ティラピア・ニロチカは比較的海水に強い種といわれているが、海水に耐する試験は多くなく、本試験ではティラピア・ニロチカを中心にティラピア類の海水耐性の基礎的なデータを得るために行なった。

1 ティラピア類の海水馴化過程における魚体減少(昭和53年度)

供試したティラピア類は、ティラピア・ジリー (*T. zillii*), ティラピア・モザンビカ (*T. moss-*